

## 病室のバイオリン

李 顕

(訳 横田勤・萩田麗子)

その日の夜、タクシードライバーのステファンは飛行場付近でオペラ劇場へ行きたいという背の高い男を乗せた。

客がオペラ劇場へ行きたいというのを聞いて、ステファンは興奮して言った。「あなた、きっとイタリアの有名な演奏家フィリップ・クイント①の特別公演を聴きにいくんでしょう？」背の高い男は笑いながらうなずいた。ステファンがさらに興奮をしたのは明らかだった。「フィリップ・クイントはそこで、一時間だけしか演奏しないんですよ！ チケットは売れ行きがよくて、さんざん苦労して友達から二枚手に入れたんですよ。あと一時間すると仕事が終わるんで、母を連れて一緒に聴きにいくんです。母は特にフィリップ・クイントの曲が好きで……」

背の高い男が車を降りた後、車を走らせていくらも行かないうちに、ステファンは後部座席の上にスーツケースがあるのに気が付いた。向きを変えて忘れ物の主を探そうとしたちょうど時、前のほうで男が二人、手招きして車を止めた。ステファンは本能的に車を止めて彼らに乗せた。

後部座席に座った男がスーツケースに気が付き、手を伸ばしてケースを開けると、中にはバイオリンが入っていて、分厚い札束もあった。ステファンは不快そうに後ろの男に注意した。「すみません、ご自分のものでないのに手を触れないでください。そのスーツケースはさっきのお客さんが置き忘れていったんです。ちょうどあの人を探しに行こうとしてたところなんです。もしかしたら、警察に連絡してやってもらわなければいけないかもしれないな」と言いながら、彼は携帯電話を取り出して、かけようとした。するとあろうことか、助手席に座っていた男が、突然光るあいくちを取り出し、ステファンの首に当て、郊外へ車を走らせるようにと言ったのだ。ステファンはうかつな行動をすることができず、ただ言われた通りにするしかなかった。

車が人家のない山地に入ると、二人の男は車を止めさせた。突然、後ろの男がハンマーを取り出し、ステファンの頭の上を殴った。すぐに血が流れ出てきた。ステファンがシートの上に倒れて気を失ったのを見て、男たちはスーツケースを持って車を降りた。

二人の男が遠くまで行かないうちに、とつぜん後ろにいた車が、狂ったように突進して来てぶつかり、彼らを地面に倒した。ステファンは気を失ったふりをしていたのだ。二人の男が地面に倒れてピクリとも動かないのを見て、ステファンは電話で警察に通報した。そして車から降りて一人の強盗の前に来て、かがんでスーツケースを持ったとき、その強盗は目を覚まし、狙いを定めてステファンの腹を続け様に二回刺した……。

ステファンは目を覚ますと、自分が病院で横たわっているのに気が付いた。そばに一人の警官、医者と看護師、そして母のバーバラがいた。母親は彼の手を握り、目に涙を浮かべて言った。「ああ、お前。お前は24時間も眠っていたんだよ。神様のおかげで、やっと目を覚ましてくれた！」

ステファンはすぐに、警官に二人の強盗を捕まえたかどうかを尋ねた。警官は言った。「私はカーターです。私たちは現場で強盗の一人を捕まえました。もう一人はお金を持って逃げました。いま全力で追っています」

ステファンは少しがっかりした。「どう言ったらいいか、私はただそのお客さんのためにバイオリンを取り戻したかっただけなんです。カーターさん、ご迷惑をおかけしますが、あの人を探して、バイオリンを届けてやってください」

カーターはうなずいて、忘れ物の主は警察に届けていたので、警察も彼をすぐに探しだすことができ、バイオリンは彼のもとに戻った、と言った。そしてカーターはちょっと出て行き、忘れ物の主を連れて入ってきた。

ステファンは申し訳なさそうに、背の高い男に言った。「すみません、あなたのものを護ることができませんでした」

背の高い男はステファンの手を握り、感激しながら「ステファンさん、私はモークと言います。警察から聞きました。もし私が忘れ物をしなかったら、あなたは刺されなかったでしょう……。あなたはもう素晴らしいですよ、お金なんか重要じゃありません。重要なのは、あなたがまだ生きていらっしゃることです！私は十分にお礼をしなければなりません！」と言うと、分厚い札束を取り出した。だがステファンは丁重に断った。

そしてがっかりしたような口調で母親に言った。「今回は母さんをフィリップ・クイントの演奏を聴きに連れて行くことができなかった。良くなったら必ず何か方法を考えて、イタリアに連れて行って、フィリップ・クイントのコンサートツアーを聴かせてあげるから」

モークは少し興味を持ったように、フィリップ・クイントのどんな曲が好きかと尋ねた。バーバラはたくさんの曲目を言って、それらを好きな理由を話した。

彼女の夫は生前、それらの曲がたいへん好きで、いつも夫が歌い彼女が弾き、子供が聞いていた。夫が病気で亡くなる前、彼女と息子にフィリップ・クイントのレコードを一枚買ってくれた。そして、自分が天国へ行った後、毎日それらの曲を聴くんだよ、と何度も言った。夫が亡くなった後、それらの曲は毎日家の中に流れている。それらの曲を聞かせることによって「暮らしがどんなに大変でも、強くそして楽しく生きていくんだよ」と夫が彼女と息子に教えてくれていることが、彼女にはわかるのだ。

バーバラの話聞いて、モークは感動して涙を流した。彼は、自分もそれらの曲を弾けるので、ステファンが血を流すこともいとわず自分のために取り戻してくれたそのバイオリンで、バーバラ親子のために演奏します、と言った。

優美で感動的な音楽が病室じゅうに鳴り響き、バーバラ親子はうっとりとして聞いていた。モークは丸一時間演奏し、そこを去るとき、持っていたバイオリンをステファンに記念として贈った。

翌日の午前中、警官のカーターがステファンの病室に来て、ビデオテープを渡した。そしてステファン親子に、モーク氏が二人に記念品として贈るために、一人の医者には昨夜の演奏のすべてを録画させたものだ、と言った。カーターは病室を出るとき、ためらいながらこう言った。「モークさんが伝えてくれって言いました。『自分があなた達に贈ったそのバイオリンは、有名なイタリアのバイオリン職人のアントニオが自分で作ったもので、百万ドルの価値があります。どうか大切にしてください』って。ああ、まだあった、言わなきゃならないことが。実は、モークさんはイタリアの有名な演奏家で、本当の名前はフィリップ・クイントっていうんですよ」

ステファン親子は目を丸くして、呆然としてしまった……。

①フィリップ・クイントは本文ではイタリアのバイオリニストとなっているが、ロシア出身の若手バイオリニストとして有名なフィリップ・クイント(Philippe Quint 1974～)をモデルにしているのではないかと思われる。

(『中国微型小説排行榜 2012 年』百花洲文芸出版社, 南昌市, 2013, pp. 1411-143.)



(中国語原文)

## 病房里的琴声

李 显

这天晚上，出租车司机史蒂芬在机场附近拉了一个高个子男人，要去大歌剧院。

听说乘客要去大歌剧院，史蒂芬很兴奋，说：“先生一定是去观看意大利著名演奏家菲利普·昆特的专场演出吧？”高个子男人笑着点了点头。史蒂芬显得更兴奋了：“菲利普·昆特在这里只演一场，而且只有一个小时！演出票很抢手，我费了很大的劲儿从朋友那里买到两张。再过一个小时，我就收工了，我要带着母亲一起去观看演出，我母亲特别喜欢菲利普·昆特的曲子……”

高个子男人下车后，车子开出没多久，史蒂芬发现后座位上有一个手提箱。就在他打算调头回去寻找失主时，前面两个男人招手拦车，史蒂芬本能地把车停住，让他们上了车。

后座位上的男人发现了手提箱，他伸手打开箱子，里面有一把小提琴，还有几捆厚厚的钞票。史蒂芬不高兴地提醒后面的男人：“对不起，先生，你不应该动不是你的东西。那个箱子是刚才一位客人落下的，我正打算去找他。也许我应该报警，把这件事交给警察处理。”说着，他拿出手机就要打电话。谁知，副驾驶座位上的男人突然拿出雪亮的匕首，抵在史蒂芬的脖子上，让他把车开到郊外。史蒂芬不敢轻举妄动，只能照做。

汽车驶入没有人烟的山区后，两个男人让史蒂芬把车停在路边。突然，后面的男人拿出一把铁锤猛地砸在史蒂芬头上，顿时，鲜血流淌出来。见史

蒂芬倒在座位上晕了过去，两个男人拎着箱子下了车。

两个男人走出没多远，突然身后的汽车疯狂地冲上来，将他们撞倒在地。原来，史蒂芬刚才是假晕了过去。见两个男人倒在地上一动不动，史蒂芬打电话报了警，然后下车来到一个抢匪身边弯腰去拿箱子时，地上的抢匪醒来，并对准史蒂芬的肚子连刺两刀……

史蒂芬醒来时发现自己躺在医院里，身边一名警察，有医护人员，母亲巴巴拉也在身边。母亲握住他的手，眼里含着泪说：“我的孩子，你已经睡了整整 24 个小时，上帝保佑，你终于醒了！”

史蒂芬急切地问身边的警察是否抓到了那两名抢匪。警察说：“我是卡特警官。我们在现场抓到了一名匪徒，另一名匪徒拿着钱逃掉了，我们正在全力追捕。”史蒂芬有些失望地说：“怎么说，我只帮那位客人追回了一把小提琴。卡特警官，麻烦你帮我找到那位失主，把小提琴还给他。”

卡特警官点点头，说失主丢了东西之后就报了警，警方很快就找到失主，并把小提琴还给了他。卡特警官出去了一会儿，把失主带了进来。

史蒂芬不好意思地对高个男人说：“对不起，先生，我没保护好你的东西。”高个男人握住史蒂芬的手，感激地说：“史蒂芬先生，我叫莫克，听警方说，要不是为了我的东西，你就不会被刺……你已经很了不起了，钱财都不重要，重要的是，你还活着！我要好好感谢你！”说完，他拿出厚厚一沓钱来。可史蒂芬婉言谢绝了。

史蒂芬遗憾地对母亲说：“这次，我没能带您去看菲利普·昆特的演出，等我康复了，一定想办法带您去意大利，观看菲利普·昆特的循环音乐会。”

莫克有些好奇地问巴巴拉，她喜欢菲利普·昆特的什么曲子。巴巴拉说出一大堆曲目，还说出喜欢它们的原因：她丈夫生前很喜欢这些曲子，常常是丈夫唱，她弹奏，孩子听。丈夫病逝前，给她和孩子买了一盒子菲利普·昆特的唱片，叮嘱说，他去天堂后，她和孩子每天都要听那些曲子。丈夫走后，那些曲子便天天在家里飘荡。她知道，丈夫是用那些曲子告诉她和孩子，无论生活有多艰难都要坚强而快乐地活下去！

听了巴巴拉的故事，莫克感动得流泪了。他说自己也会拉那些曲子，他要用史蒂芬用鲜血帮他追回的那把小提琴为巴巴拉母子演奏。

优美动听的音乐在病房里响起，巴巴拉母子听得如痴如醉。莫克整整演奏了一个小时，临走时，他把手上的小提琴送给史蒂芬留作纪念。

第二天上午，卡特警官来到史蒂芬的病房，把一盘录影带交到史蒂芬手上，对史蒂芬母子说，莫克先生让一位医生把他昨晚演奏的全景都录了下来，送给史蒂芬母子作纪念。卡特警官离开时犹豫了一下说：“莫克先生让我转告你们，他送给你们的那把小提琴，是由著名意大利琴师安东尼奥亲手制作的，价值百万美元，一定要好好保存。噢，还有，我觉得，应该告诉你们，其实，莫克是意大利著名演奏家，他的真名叫菲利普·昆特。”

史蒂芬母子顿时目瞪口呆……

